

世界報道写真展2018 出展作品リスト

パネル	写真家	国籍	カテゴリー	内容
1	ケヴィン・フレイヤー	カナダ、ゲッティイメージズ	一般ニュースの部 組写真 2位	ミャンマーの少数派イスラム教徒ロヒンギャの集落が襲われ、家々に火がつけられた。数十万もの難民が徒步またはボートで隣国バングラデシュに逃れ、その途中で多くの命が失われた。国連児童基金(ユニセフ)によると、難民の半数以上が子どもであったという。
2				
3左	ムハンマド・マスフィクター・アクトール・ソーハン	バングラデシュ、NurPhoto Agency	一般ニュースの部 単写真 3位	コックスバザール(バングラデシュ)のレダ仮設居住区から対岸ミャンマーの住宅が燃える様子を見守るロヒンギャ難民のグループ。
3右	パトリック・ブラウン	オーストラリア、パノス・ピクチャーズ	一般ニュースの部 単写真 1位 世界報道写真大賞候補作品	ミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民約100人を乗せたボートが、コックスバザール(バングラデシュ)近くのイナビーチ沖合約8キロで転覆した。回収された難民の遺体が並べられている。
4	フランチェスコ・ビスティッリ	イタリア	一般ニュースの部 組写真 3位	欧州連合(EU)への進入路「バルカンルート」の取り締まりが強化され、新生活を求めてセルビア経由でヨーロッパへと向かった何千人の難民が行き場を失った。多くがベオグラードの主要鉄道駅裏手の廃倉庫に寝泊まりして冬を過ごした。
5	ゴラン・トマシェヴィッチ	セルビア、ロイター通信	スポットニュースの部 単写真 3位	モスル奪還作戦で自爆テロ容疑者を射殺した直後のイラク軍特殊部隊の兵士。モスルを過激派組織「イスラム国」(ISIS)から奪還する作戦は2016年10月に開始され2017年7月まで続いたが、その後も、市街の一部地区で戦闘が散発している。
6	イヴォール・ブリケット	アイルランド ニューヨーク・タイムズに提供	一般ニュースの部 組写真 1位 世界報道写真大賞候補作品	イラク政府は数ヶ月に及ぶ戦闘の後、過激派組織「イスラム国」(ISIS)からのモスル解放を宣言したが、その後も市街の一部地区で交戦が続いている。特に建物が密集している西半分の旧市街は制圧が困難となり、数千人の市民が銃撃戦に巻き込まれた。
7				
8	ロナルド・シュミット	ベネズエラ AFP通信	世界報道写真大賞 スポットニュースの部 単写真 1位	ベネズエラの首都カラカスで、ニコラス・マドゥロ大統領に対する抗議デモ参加者が警察機動隊と衝突した際、着衣に引火し炎に包まれたホセ・ヴィクター・サラザール・バルザ(28歳)
9	ファン・バート	ベネズエラ AFP通信	スポットニュースの部 組写真 3位	ベネズエラの首都カラカスでニコラス・マドゥロ大統領に対する抗議デモが行われた。この時、オートバイの燃料タンクが爆発して、ホセ・ヴィクター・サラザール・バルザ(28歳)の着衣に引火し、彼は猛烈な炎に包まれた。
10	ハビエル・アルセニージャス	スペイン Luz	長期取材の部 3位	ラテンアメリカのいくつかの都市では、犯罪組織の抗争と麻薬密売によって無法状態が続き、紛争地域を除いて世界で最も危険な都市にランクされている。ホンジュラス、エルサルバドル、グアテマラおよびコロンビアでは、「マラス」と呼ばれる犯罪集団により日常的な恐喝やその他の暴力で市民が犠牲になっている。
11				
12左	マグナス・ウェンマン	スウェーデン、アフトン・プラテッド	人々の部 単写真 1位	スウェーデンの町ホルンダルに住むジェネタ(右)とイバデタ(左)。2人の姉妹はレジグネーション(生存放棄)症候群にかかっている。原因は明らかではないが、トラウマ(心的外傷)、ストレス、うつ症状が関係していると考えられている。
12右	アレッシオ・マーモ	イタリア、リダックス・ピクチャーズ	人々の部 単写真 2位	イラク北部キルクーク市で爆発したミサイルのため負傷した11歳の少女マナル。ヨルダンの首都アンマンの病院で、国境なき医師団(MSF)が運営する再建手術プログラムの下で大規模な整形手術を受け、顔を保護するため仮面を着けている。
13	トビー・メルヴィル	イギリス ロイター通信	スポットニュースの部 組写真 2位 世界報道写真大賞候補作品	ロンドン中心部の英國議会議事堂に近いウェストミンスター橋で起きた事件。カリド・マースードはこの日、歩道沿いにレンタカーのスポーツ用多目的車(SUV)を走らせて歩行者をはねた。3人が即死し、後日さらに2人が死亡、40人以上が負傷した。
14				
15	エスベン・ラスマッセン	ノルウェー パノス・ピクチャーズ	現代社会の問題の部 組写真 3位	バージニア州シャーロッズビルで「ユナイト・ザ・ライト」(右翼よ、団結せよ)と名づけられた極右集会が開かれた。この集会には、全米から極右グループが數十年ぶりに集結したが、その目的の一つは、南北戦争で南軍を率いたロバート・E・リー将軍の銅像を撤去する計画に抗議することにあった。
16				
17	ティヴィッド・ベッカー	アメリカ ゲッティイメージズ	スポットニュースの部 組写真 1位	米国ネバダ州ラスベガスの「マンダレイ・ベイ・リゾート・アンド・カジノ」で行われていたカントリーミュージックの音楽祭「ルート91ハーベスト・フェスティバル」で起きた銃乱射事件。ステーブン・パドックは観客約2万2,000人に向けて銃を乱射、58人を殺害し、500人以上を負傷させた。
18				
19	ライアン・M・ケリー	アメリカ デイリー・プログレス	スポットニュースの部 単写真 2位	米国バージニア州シャーロッズビルで行われた極右集会「ユナイト・ザ・ライト」に抗議するデモに車が突っ込み、空中に跳ね飛ばされるデモ参加者。南北戦争で南軍を率いたロバート・E・リー将軍の銅像を撤去する市の計画を阻止するために行われ、集会の人種差別主義に抗議するグループと衝突した。
20	リチャード・ジョン・ターティ	アメリカ スター・トーリーブーン	一般ニュースの部 単写真 2位	米国ミネソタ州セントアンソニービレッジでフィラード・カスティールの追悼集会が行われ、親友だったジョン・トンプソンが故人の思い出を語った後、他の出席者から抱き締められている。カスティールを射殺して起訴された警察官ジェロニモ・ヤネスが無罪判決を言い渡された2日後のことだった。
21	ヤスパー・ドウスト	オランダ	自然の部 組写真 2位	「スノーモンキー」の呼び名で広く知られるニホンザルは近年、人間にすっかり慣れてしまった。ニホンザルは1947年に保護獣に指定されているが、一部の地域ではサルを飼いならし興行目的のため訓練することが法律で認められている。
22	リ・ファイエン	中国	人々の部 単写真 3位	中国中部地域の黄土高原で山腹に横穴を掘って作る伝統的な横穴式洞窟住居「ヤオトン」に住む2人の兄弟。土の内壁は断熱効果に優れているため、住人は冬の寒さをしのぐことができる。ヤオトンは中国の最も初期の住居形式で、その歴史は2000年以上に及ぶ。
23	タチアナ・ヴィノグラドヴァ	ロシア	人々の部 組写真 3位	ロシア、サンクトペテルブルクで撮影されたセックスワーカー。サンクトペテルブルクのNGO「シルバー・ローズ」は、セックスワーカーの数は300万人に迫り、サンクトペテルブルクだけでも5万人を超えていると推定している。ロシア経済の衰退によって企業や教育機関に勤務する女性さえもが失業し、セックスワーカーになるケースが増加している。
24				
25左	ジュリオ・ディ・ストゥルコ	イタリア	現代社会の問題の部 単写真 2位	タイ、バンコク近郊チョンブリーの病院で性別適合手術(性同一性障害の治療として行われる性転換手術)の後、患者オリヴィア・トマスに新たに形成された顔を確認させるサボーン・ワタニヤサカル医師。タイは医療観光(メディカルツーリズム)で世界をリードしている。特に性転換手術のために訪れる患者が多い。
25右	ジェスコ・デンゼル	ドイツ、ライフ	現代社会の問題の部 単写真 1位	ラゴス、マリーナから観光客を乗せ、マココ地区の運河を進んでいく1隻のボート。マココは人口約15万、その多くが何世代にもわたりこの集落で生活してきたが、ラゴスの急発展により、不動産売買用の海岸の土地が限られ、富裕層のための居住区域を建設する動きがある。
26	アダム・ファーガソン	オーストラリア ニューヨーク・タイムズに提供	人々の部 組写真 1位 世界報道写真大賞候補作品	ナイジェリアのイスラム過激派「ボコ・ハラム」に誘拐された少女たちの肖像写真。少女たちは美しい身着いをさせられ、爆発物をひもで身体に縛り付けられて、人出が多い街中で自爆するよう命じられたが、命令を実行する前に逃げ出し助けを得ることに成功した。
27				
28	アンナ・ボイアジス	アメリカ	人々の部 組写真 2位	タンザニア東部のザンジバル諸島では、昔から少女に水泳を習わせない。保守的なイスラムの文化では禁じられているうえ、地味でつましい水着が手に入らないためだ。しかし、ザンジバル北端の村落では、全身を覆う水着のおかげで自分たちの文化的・宗教的信条に反することなく学ぶことができる。
29				
30	エバ・ハミス	エジプト	現代社会の問題の部 組写真 1位	カムルーンでは、思春期に連した少女の胸のふくらみを抑え、その発育を食い止めるためマッサージや圧迫を行う「フレスト・アイロニング」と呼ばれる風習が残っている。これによって女性としての成熟を遅らせ、レイプや性的な接觸を避けられるなど信じられているためだ。
31				

世界報道写真展2018 出展作品リスト

パネル	写真家	国籍	カテゴリー	内容
32	カルラ・コゲルマン	オランダ	長期取材の部 1位	ハンナとアレナ姉妹が住む村、メルケンプレヒツは、チェコとの国境にほど近い、オーストリアのヴァルトフィアテル(森の地方)と呼ばれるへんびな農業地域にある。人口わずか170人のこの村では、消費するエネルギーのすべてを地元のバイオマスやその他の再生可能エネルギーでまかなっている。コゲルマンは2012年以来、毎年夏になるとこの姉妹と一緒に過ごすため数週間この村に滞在し、二人が成長する姿を写真に撮り続けている。
33				
34				
35				
36	ダニエル・ベルトラ	スペイン、USA	環境の部 組写真 3位	ブラジル・アマゾン川流域の森林破壊は、1995年と2004年にピークを迎えた後、減少傾向にあったが、2016年に急激に進行した。アマゾンの熱帯雨林は世界最大の炭素吸収源のひとつで、毎年数十億トンもの二酸化炭素を吸収して気候を調整する働きをしている。
37				
38	ジョージ・スタインメツ	アメリカ ナショナルジオグラフィックに提供	現代社会の問題の部 組写真 2位	中国では、所得水準の急上昇に伴い人々の食生活が変化し、食肉、酪農製品、加工食品の需要が増大している。この国では世界の耕作可能な土地の約12パーセントを使って、世界人口の19パーセントに迫る割合を占める自国民を養っていかなければならない。
39				
40	カディル・ファン・ローイゼン	オランダ ヌール・イメージズ	環境の部 組写真 1位	世界中の主要都市で廃棄物がどのように管理されているかを記録した写真。世界銀行の調査によると、世界中で排出される固形廃棄物の量は100年前に比べ10倍に増加し、1日当たり350万トンに達している。埋め立て式ごみ処理地と廃棄物集積場は飽和状態に達しつつある。
41				
42左	トマス・P・ベシャク	ドイツ	環境の部 単写真 2位	南極圏に位置する南アフリカの領土、マリオン島で、外来種であるハツカネズミに襲われてけがをしたハイガシラホウドリの若鳥。ハツカネズミは19世紀にアザラシ猟船によってマリオン島に持ち込まれ、島で増殖した。異常な大きさに成長したネズミがアホウドリやウミツバメを襲うようになっている。
42右	トマス・P・ベシャク	ドイツ	環境の部 単写真 3位	ナミビアのハリックス島。ここではかつて10万羽を超えるアフリカベンギン(ケープベンギン)がコロニー(群れ)を成していた。画面手前は1890年代末期に撮影された写真で、背景は2017年の同じ場所。ベンギンの数がいかに激減したかを示している。
43	ニール・アルドリッジ	南アフリカ	環境の部 単写真 1位	麻酔をかけられ、目隠しされた若いミナミシロサイ。密猟者から保護するため、南アフリカからボツワナ北西部のオカバンゴ湿地に運ばれ、野生に戻されようとしている。
44	ファウスト・ボダヴィーニ	イタリア	長期取材の部 2位	エチオピアのオモ川に建設されたギベ第3ダムは、オモ渓谷沿いに住む人々だけでなく、下流のケニア領トゥルカナ湖周辺の住民にも影響を与えている。オモ渓谷沿いでは八つの異なる民族が食料の確保をオモ川に依存し、環境との微妙なバランスを維持しながら生活している。エチオピア政府は、このダムを水力発電による貴重な電力源、大規模農業用水の供給源、および観光名所として重視しており、環境に悪影響を及ぼすという主張に異議を唱えている。
45				
46				
47				
48	ルカ・ロカッティ	イタリア ナショナルジオグラフィックに提供	環境の部 組写真 2位	オランダは国土が狭く人口密度が高い。大規模農業に必要な基本条件が欠如しているにもかかわらず、同国は、革新的な農業技術を生かして、金額ベースでは270倍の国土規模を誇る米国に次いで世界第2位の食品輸出国になっている。
49				
50	マイケル・パトリック・オニール	アメリカ	自然の部 単写真 3位	深夜、米国フロリダ州バームビーチ沖合でメキシコ湾流の水面下を泳ぐトピウオ。最高時には尾びれを1秒間に70回も動かし、水面下を泳ぐ速度は時速約60キロに達する。天敵から身を守るために、進行の角度を上に傾け、水面下で尾びれを激しく動かすことによって推力を高めながら水上に飛び出し、海面上を滑空する。
51	トマス・P・ベシャク	ドイツ ナショナルジオグラフィックに提供	自然の部 組写真 3位	ガラバゴス諸島では、島々に沿って合流する4つの主要な海流の影響で多様な動物を生み出す環境が形成されており、少なくとも7,000種の動植物が生息している。ガラバゴスの生態系は気温、降雨量および海流の変化に極めて繊細に反応する。
52	トマス・P・ベシャク	ドイツ	自然の部 単写真 2位	インド洋上の南極圏に位置する南アフリカ領マリオン島で、その名にちがわず跳び渡るイワトビエンギ。危急種(絶滅の危険性が高い種)と見なされており、その数は年々減っている。餌となる生物が減少していることが原因と見られる。
53	コーリー・アーノルド	アメリカ	自然の部 単写真 1位	アラスカ州ウナラスカ島ダッチハーバーのスーパーマーケットの生ごみ置き場でくず肉を食べるハクトウワシ。絶滅の危機に瀕していたが、保護活動によってその数を圧倒的に回復させた。トロール漁船に詰まれた魚を狙はほか、生ごみをあさり、無防備な歩行者の手から食料品が入った買い物袋をかすめ取る。
54	アミ・ヴィタール	アメリカ ナショナルジオグラフィックに提供	自然の部 組写真 1位	ケニア北部のレティ・エレファント・サンクチュアリ(保護施設)では、地域住民が中心になって、親を失い置き去りにされた小ゾウを保護し野生に帰している。このサンクチュアリは地域住民によってサンブル族が先祖代々守ってきた自治区に開設された。
55				
56	エリック・サンバーズ	フランス	スポーツの部 単写真 3位	南モロッコに広がるサハラ砂漠で開催されたサハラマラソンで、タイムランキングステージのひとつをスタートする参加者。サハラマラソン(砂漠のマラソン)は50℃に達する猛暑の中、250キロメートル以上の距離を走るレース。第1回は1986年に実施され186人が競った。現在は50余りの国から1,000人以上が参加する。
57	ニコライ・リナレス	デンマーク	スポーツの部 組写真 3位	闘牛は本場スペインでさえ長きにわたり賛否が分かれてきた競技で、人気が落ちてきている。それでも国内の少年たちが闘牛場でのスターの座を夢見て、必要な技能を修得するため闘牛学校に通っている。
58	ロジャー・トレッソン	スウェーデン ダーゲンス・ニューヘル	現代社会の問題の部 単写真 3位	北朝鮮平壠の金日成競技場で、観客が平壠マラソンのスタートを待っている。北朝鮮は、国家による厳格な管理方針の下に政治が運営されている。地元メディアは厳しく規制され、外国メディアは大多数が排除されており、取材が認められる場合も監視担当者が同行する。
59	アラン・シュローダー	ベルギー レポーターズ	スポーツの部 組写真 1位	インドネシアのスマバ島で行われるマエンジャラン競馬の様子。子どもたちの騎手が防具もほとんど着けず、裸足で小さな裸馬を走らせる。かつては地元住民の収穫を祝う行事として代々受け継がれてきたが、20世紀に、島を統治したオランダ人が役人をもてなすための競戦用のスポーツに変更した。
60				
61左	ステファン・マッカーシー	アイルランド スポーツファイル	スポーツの部 単写真 2位	ニュージーランドの北東にあるロトルア市の国際スタジアムで行われた、ブリティッシュ・アンド・アイリッシュ・ライオンズ対マオリ・オールブラックスのラグビー国際試合でスクラムを組む両チーム。
61右	オリヴァー・スカーフ	イギリス AFP通信	スポーツの部 単写真 1位	英國ダービーシャー州アッシュボーンで年に1度行われる、古い歴史を誇るロイヤル・ショローヴィー・フットボールの試合。敵対するアッバースとダウナーズの両チームがボールを激しく奪い合っている。
62	ファン・D・アルレンド	コロンビア	スポーツの部 組写真 2位	左翼ゲリラ組織、コロンビア革命軍(FARC)は50年以上続いた武力抗争の後、政府との和平合意に達した。これに伴いFARCは組織を解散し、現在、旧ゲリラのメンバーの多くはコロンビア政府軍の兵士や内戦の被害を受けた市民チームとのサッカーの試合に参加している。

* 組写真作品ではキャプションの一部が重複しています。

* パネルの番号と展示の順番は一致しておりません。